

令和4年度 第3回油化学セミナー

若手研究者による油脂、界面の最前線 — 関東支部 第10回若手研究者奨励賞記念講演会 —

日本油化学会関東支部では、WCOS2022 で発表された関東支部所属の若手研究者の講演から、優秀な発表を投票で選出しました。関東支部幹事による厳正な審査の結果、4名の研究者が若手研究者奨励賞として選出され、このたび関東支部若手研究者奨励賞記念講演会を開催する運びとなりました。未来に羽ばたく若手研究者の講演を是非お聞きください。

日 時：令和4年12月26日（月）13:10～17:00

※ 新型コロナウイルス対策の関係上、Zoomによるオンライン形式となります

主 催：公益社団法人日本油化学会関東支部

プログラム

13:10～13:15 開会の辞

13:15～14:10

1. 「木質由来アニオン性界面活性剤を原料とするバイオベース材料の開発
～特異な物性・機能および更なる物性向上に向けた取り組み～」

産業技術総合研究所 機能化学研究部門 牛丸 和乗氏

本講演では、木質由来のアニオン性高分子であるリグニンスルホン酸から成る新規材料を紹介する。本材料に特有の物性・機能の紹介と併せて、WCOS2022にて発表を行った物性・耐久性の更なる向上への取り組みも紹介する。

14:10～15:05

2. 「アニオン性界面活性剤を用いた固液界面の解析」

花王株式会社 岡村 諭氏

分子構造の異なるアニオン性界面活性剤を用いて、疎水性固体–水溶液間の界面活性剤の存在状態を、界面エネルギー的観点と分光学的手法による解析と考察を行った。

15:05～16:00

3. 「スクアレンの化学変換による有用化学品の合成及び水中での自己集合」

産業技術総合研究所 食薬資源工学オープンイノベーションラボラトリ Tran Ngoc Linh 氏

藻類由来スクアレンを原料として、新たな有用化学品を創製している。その中、エチレングリコール基を有する両親媒性スクアレンは、水中で、二分子膜を形成する等、特異な自己集合挙動を示すことを見出した。

16:00～16:55

4. 「生物学研究に向けてのビタミンE ビーケル調製に関する研究」

東京農業大学 生物産業学部 食香料化学科 小河 重三郎氏

脂溶性ビタミンであるビタミンEは水に難溶性酸化防止剤である。本発表では、安定化剤フリーあるいはシクロデキストリン安定化剤添加下でのビタミンEの水系での基本的挙動と生物学的研究への展開に関して報告する。

16:55～17:00 閉会の辞

参加費：無料

申込方法：氏名と連絡先を明記の上、12月20日(火)までに **E-mail** でお申込みください。
申込者には、要旨集ならびに **Zoom** のリンク先を **mail** にてご案内致します。

申込先：〒220-0011 神奈川県横浜市西区高島1-2-11
(株)資生堂みらい開発研究所 シーズ開発センター 宮原 令二
E-mail: reiji.miyahara@shiseido.com
TEL: 070-3859-1910

以上